

■ 2019年末透析患者総数は34万4,640人

患者数の増加は70歳以上の増加によるもの

2019年末における透析患者の現況が日本透析医学会（以下、医学会）から発表されました。透析患者総数は34万4,640人（前年比1.4%増）、平均年齢は69.09歳、最も多い原疾患は糖尿病性腎症、次いで慢性糸球体腎炎、第三位は腎硬化症でした。透析患者数の増加は続いています、その伸びは緩やかです。

年齢に着目して透析患者数をみると、最も割合が高い年齢層は男女とも70～74歳でした。65歳未満の患者数は2012年から減少し、70歳未満の患者数は2017年から減少しているため、透析患者数の増加は、70歳以上の患者数の増加によるものであることがわかります。

糖尿病性腎症に次いで多いのは腎硬化症（新規導入患者の原疾患）

新たに透析を開始した新規導入患者数は4万885人（1.0%増）で、前年2018年から417人増えました。新規導入患者の平均年齢は70.42歳、原疾患では、糖尿病性腎症が最も多く41.0%でしたが、その割合は前年より0.7ポイント減少しました。次いで多かったのは腎硬化症（16.4%）で、今回はじめて慢性糸球体腎炎（14.9%）を上回りました。

最長透析歴は51年4か月でした。

また、医学会では今回、初めて過去に腎移植ドナーとして自身の腎臓を提供したことがあるか等について調査を行いました。年間に実施される腎移植のほぼ9割が生体腎移植です。慢性的なドナー不足のため、高齢や高血圧、糖尿病をもつドナーからの移植も行われている背景があります。誤解して回答された可能性が考えられるため、調査結果の解釈は慎重さが求められるとされていますが、腎提供年を回答した患者は104人おり、提供してから透析導入までの期間は平均17年2か月でした。

（2019年末現在）

わが国の慢性透析療法の現況（要約）

慢性透析患者総数	344,640人（4,799人増 1.4%増）
新規導入患者数	40,885人（417人増 1.0%増）
新規導入患者の原疾患	
1 糖尿病性腎症	16,019人（41.6%）
2 腎硬化症	6,330人（16.4%）
3 慢性糸球体腎炎	5,755人（14.9%）
年末患者の平均年齢	69.09歳（0.34歳増）
新規導入患者の平均年齢	70.42歳（0.43歳増）
最長透析歴	51年4か月

日本透析医学会調べ

■ 新型コロナワクチン優先接種の基礎疾患対象に

昨年12月25日、厚生労働省は新型コロナウイルスワクチン優先接種の対象とする「基礎疾患」について議論し、透析患者や腎移植者などを含める方針を決めました。

基礎疾患の対象となる人は全体でおよそ820万人にのぼる見込みで、厚生労働省は同日、自治体に対し、接種開始に向けた準備を進めるよう通知を出しました。

現時点で示されている優先順位は以下のとおりです（かっこ内は予定接種時期）。

- ② 医療従事者等（2月下旬以降）
- ② 高齢者（3月下旬以降）
- ③ 基礎疾患を有する者（4月以降）
- ④ 高齢者施設等の従事者（同上）
- ⑤ 60歳から64歳の者（同上）
- ⑥ その他の者（同上）



（参考 <https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000711249.pdf>）